

No.2513

東アジアにおけるアーカイブズ理念の受容と歴史的文化的情報資源の構築

—日本・韓国・中国・台湾を中心として—

学習院大学大学院人文科学研究科 博士後期課程

濱田 英毅

近年、歴史認識問題が膠着している。この原因の一つとして、議論の土台となるべき歴史資料の共有化が、東アジアにおいては不十分であるという事実を指摘できる。しかし、各国・各地域でアーカイブズ理念に決定的な違いがあり、共有化が進まないというのが現実である。そこで、まずは各国・各地域のアーカイブズ理念の違いを把握した上で、それが形成された歴史的文化的背景まで遡り、対策を考究することが必要である。本調査では、「公文書」と「私文書」を各国・各地域のアーカイブズがどのように扱ってきたか、あるいはどのように収集し保存・管理してきたかについて現状調査することで、各国・各地域のアーカイブズ理念の特質に迫った。

一年目は、共同研究の構成員を地域ごとに分け、各班とも基礎調査を行った。日本研究班では、地域公文書館における制度・機構と私文書の保存・収集の現状について全国的なアンケート調査を行い、中国研究班、韓国研究班、台湾研究班の各研究班では国家档案馆やアーカイブズ機関を訪れ、同じく制度・機構に関するインタビューならびに、「私文書」の保存管理の現状についての現地調査を行った。

二年目は、各班の問題意識に照らした事例研究を行った。日本研究班は、引き続き、アーカイブズの整備が進む一方で忘れ去られつつある、私文書の収集・保存問題について考察した。中国班は、档案行政の現状を調査することで、国家管理の在り方を考察した。韓国・台湾・香港班は、より実務レベルの、現用文書からアーカイブズに移管されるまでの過程について明らかにした。こうした各国・各地域の抱える問題点を明らかにすることで、共有化の障害をより具体的に浮き彫りにしようと試みた。

以上をふまえ、最終報告会では、専門家から事例研究に対するコメントをいただき、今後の課題と展望についての検討を行い、最終報告書を作成した。